

# さくら

平成 29 年 5 月 16 日号(29-03)  
桜小学校長 発行

<http://sakura-e.yatomi-schoolnet.jp/>

## 自己の生き方についての考えを深める学習

これは、平成30年度から教科化される「特別の教科 道徳」が目標とするところです。様々な価値や考え方に対して、誠実に向き合い、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深め、今後出会うであろう様々な場面、状況に対して適切に対応し、よりよく行動していくことができる資質を養うことを目標としています。

先日の修学旅行では、事前に、「こんな心くばりをしてもらった」「こんな心くばりに出会った」「そしてどう思ったか」などをまとめておいてくださいとお願いしました。すると、子どもたちは、色々なところに着目してくれました。

- 二月堂の近くで、外国人の男性に出会いました。その人は、坂道で写真を撮ろうとされていたのですが、私たちの班の人はその人に気付かず、前に出てしまい、撮影のじゃまをしてしまいました。でもその人は、嫌な顔一つせず、「どうぞ」と日本語で話してくれました。その気遣いに心が温かくなりました。
- 御殿荘でコーヒー牛乳をこぼしてしまったときに、誰一人「あーあ」などと言わず、ティッシュを貸してくれたり、やさしく「大丈夫？」と声をかけてくれたりしました。面倒くさがらず、自分のことのように声をかけてくれ、とてもうれしく思いました。
- お買い物タイムで遅れてしまったときに、班の子が5分ぐらい待っていてくれました。とても優しいなと思いました。
- 買い物の時、店が混んでいても、文句を言わず最後までその子のことを待ってあげていた様子を見て、優しいなと思いました。
- 御殿荘で自分の部屋へ戻る道を忘れてしまい、廊下をうろうろしていたら、旅館の方が気付かれたようで、僕に声をかけてくれました。部屋への道順を聞くと、ニッコリ笑ってついてきてくれました。

- 御殿荘の方は、とてもいねいに接客をされていて、友達が体調を悪くしたときも、やさしく対応してくださいました。
- 鼻血を出した子がいた時に、みんなが「大丈夫？」と声をかけたり、「これ使って」とティッシュを出してくれたりしていて、優しさと思いやりを実感しました。
- 御殿荘の方は、食事を運んでくださるときなどに、すごく優しく話してくれました。また、ご飯を運んでくれるときも、ていねいに振る舞ってくれました。
- 清水寺の舞台がとても混んでいて、景色がなかなか見れず、困っていると、ぼくたちを察して、近くの人が場所をゆずってくれました。こちらから何も言っていないのに、心配りがすごいと思いました。こういったことを見習って、自分も電車で席をゆずるなどまわりの人への気くばりをしていきたいと思いました。
- バスの中で、「おおきに」という言葉を教えてもらい、部屋の子たちと、「大きな声でおおきになって言おうね」と話していました。御殿荘の方が八つ橋を持ってきてくださった時、大きな声で「おおきに」と言ったら、笑顔で「おおきに」と言ってくださいました。臨機応変に対応してくださった姿に、心が洗われる思いがしました。
- 東大寺で鹿を見ていて、みんなから離れてしまったとき、友だちが待っていてくれたり、私たちの班がルートが分からなくなったときに、保健の先生が優しく教えてくださったりすることがありました。また、人が多くて友だちが迷子になりそうなきも、みんなで協力して声をかけ合いました。いろいろな人の心くばりのおかげでみんなが時間を守ることができ、楽しい修学旅行になりました。



これからも教育活動全般において、「人としてよりよく生きる上で大切なものは何か、自分はどのように生きるべきか」等について、自分の内面と照らし合わせながら、気付いていってほしいと願っています。